

[過去一七年の出典分析]

年 度 出 典	主 題（専門分野）	分 類
二〇二五 田中彰吾『身体と魂の思想史 ―「大きな理性の行方」』	鏡像認知と他者の視点（心理学・哲学）	自他問題
二〇二四 小川さやか「時間を与えあう 商業経済と人間経済の連環を築く「負債」をめぐって」	贈与交換と市場交換（文化人類学）	文化論・経済論
二〇二三 吉田憲司「仮面と身体」	仮面・宗教儀礼（文化人類学・哲学）	表象文化・自他問題
二〇二二 鵜飼哲「ナショナリズム、 その〈彼方〉への隘路」	ナショナリズム・「日本人」論（哲学）	ナショナリズム批判
二〇二一 松嶋健「ケアと共同性 個人主義を 超えて」	ケアの論理・近代化批判（文化人類学）	ポストモダン論
二〇二〇 小坂井敏晶『『神の亡霊』6 近代の原罪」	格差論・近代化批判（社会心理学）	近代化批判
二〇一九 中屋敷均「科学と非科学のはざまで」	カオスの縁・科学論・生命論（農学）	科学論・学問論
二〇一八 野家啓一『歴史を哲学する』	物語論・歴史哲学（科学哲学・歴史哲学）	物語論・存在論
二〇一七 伊藤徹『芸術家たちの精神史』	テクノロジー・基準の虚構性（哲学）	科学技術・表象文化
二〇一六 内田樹「反知性主義者たちの肖像」	反知性主義（フランス文学）	知性論
二〇一五 池上哲司『傍らにあること 老いと介護の倫理学』	自己と他者・自己の存在（哲学・倫理学）	自他問題・存在論
二〇一四 藤山直樹『落語の国の精神分析』	精神分析・自己（精神医学）	自他問題
二〇一三 湯浅博雄「ランボーの詩の 翻訳について」	翻訳・言語と文化（フランス文学）	言語と翻訳・異文化
二〇一二 河野哲也『意識は実在しない』	近代化批判・科学批判（哲学）	近代化批判
二〇一一 桑子敏雄『風景のなかの環境哲学』	風景論・空間論（哲学・倫理学）	空間論・人間存在論
二〇一〇 阪本俊生『ポスト・プライバシー』	自己アイデンティティ・情報（社会学）	自己論・人格論
二〇〇九 原研哉『白』	表現と美意識（美術・デザイン）	表現論・文化論

[基本パラダイムと基幹概念]

- ① 実体概念と関数概念 …… 実体・存在・関係・虚構（擬制）
表象文化論 …… 非実体・文化・意識・メディア・動的生成

*「実体」substance とは、「他の何物にも依拠せず、それ独自で存在するもの」であり、古来その内実が追究され、近代ではデカルトの「我思う、ゆえに我在り」に端的に示された「精神」や、唯物論的な「物体」が実体とされてきた。しかし、今日では「実体とは何か」と問うのではなく、「関係（関数・機能・作用）function はいかにはたらくか」という問い方が重視される。（ポスト・モダン論の観点、実存主義ではなく構造主義へ、等も大きくはその方向）

*近代までの「～とは何か」という問い自体に、静態的固定的な「モノ」（実体）の存在を自明の前提とするところがある。「自由とは何か」といった問いでさえ、「自由」を固定的な属性のように捉えて定義しようとしているが、自由や平等は「人と人との間の関係性」でしかない。すべては fiction（人為・虚構・擬制）であり、その fictionこそが人間の文化であり、価値である。なお、「表象文化論」等の「表象」representation は、ほぼ「イメージ」と解してよい。

- ② 近代・近代化批判 …… 人間と自然・人間主体と客観科学・合理性・テクノロジー・環境

*「近代（化）」という言葉は、単なる歴史年表上の一期間や出来事を意味するのではなく、技術革新、産業革命、資本主義の確立、大航海時代、市民革命などの大きな制度的、構造的変化とそれに伴う文化的変質を統合的に含むものである。幕末から明治の日本の場合、西欧諸国、「西洋」文明へのキャッチ・アップが「近代化」であった。

*たびたび問題視される、日本にとっての狭義の「近代（化）」は、自然科学的な「合理主義・客観性の重視」であり、社会思潮・制度面では「中央集権的な国民国家の確立と個人主義・人権尊重（自由）・民主主義（平等）」であり、経済面では「資本主義」である。言い換えれば、「非合理的な因習の打破と教育の普及、文明開化」であり、「封建的な身分秩序、男尊女卑、地方分権の打破」であり、「立身出世、メリトクラシー、自助努力の奨励」等である。

*近代化批判の典型は、「理性偏重による『人間が自然を研究し、支配する』という人間中心主義の発想こそが、今日の自然・生態系・環境の破壊の元凶である」というものである。これと並んで、「資本主義の経済開発と効率重視のイデオロギーによって、豊かな自然や風景と人間との調和を重んじる伝統や人間本来の生活や文化が損なわれた」という論も極めて多くみられる定型である。

*したがって、近代化批判は「合理主義・資本主義・個人主義」等への定番の批判と、それらに代わって提唱される「人間の弱さ・人間的な暮らし・共同性」等が、要旨の定型である。

- ③ ナショナリズム批判・歴史と物語 …… 国民（民族・国家・国語）・近代・物語・擬制・過去と歴史

*ほぼ十八世紀後半からの技術革新・産業革命を経て、産業資本主義の進展がみられると、これを支えるための、売買取引を可能とするための広大な「市場 market」や原材料の供給地、労働力の確保が必要とされる。そして、広大・広域・大量といった規模の必然として、また、貨幣・法・言語の共通性を条件とすることから、強大な強制力を持つ中央集権国家が要請される。これが近代「国民国家 nation state」である。実態的には多様な人々、諸民族の雑多で緩やかな集合体であったはずの「地域 region」は、「国民国家」（国民・領土・主権）によって単位化された。これを、諸民族 nations に対する「国民 Nation」の成立という観点で捉えることも少なくない。

*B・アンダーソンが「幻想の共同体」と評したものこそ、ここで言う「国民・国民国家」である。保守的、ナショナリスティックな論調では、この「国家・国民」に付随して、「国史 National History（大文字の歴史）」「国民文化・伝統文化」の意義や「喪失の危機」が強調され、逆に、頻出のナショナリズム批判の文脈では、これらナショナリスティックなイデオロギーが「虚構である」と批判される。素朴に言えば、『われわれ日本人』など、国籍以外に実態は皆無である』『日本文化の伝統』など、近代の国民国家日本国による創作（捏造）である」といった論調である。実際、「伝統 tradition」の観念自体が、そもそも翻訳語によるものでしかなく、近代化の産物である。近代国民国家は「われわれ国民の伝統文化」を唱えることで、近代以後の産物である国民国家の集団的統合を図ろうとするのであり、戦争や国際大会等における「愛国心」の称揚はその典型である。

④ 自他問題・自己アイデンティティー …… 自己・自我・内面・個人・他者・意識・人間存在

＊「実体」への批判的視線（解体の試み）や「国家・国民・社会」の虚構視は、必然的に人間存在それ自体、自己自身へも向けられる。確固とした「自我 ego」「自己 self」「個人 individual」の独自性・同一性 identity などへの懐疑は、「私」の曖昧さ、弱さ、意志が外部の情報によって構成されているに過ぎないこと（「私」の欲望は、広告によって無意識のうちに作られる、等）などによって例証され、近代社会の大前提ともいえる「個人」「内面の自己（意志する主体）」が虚構視される。そのことがもたらす意義としては、非近代的・前近代的な社会システムや価値の再評価につながり、現代社会の閉塞状況に対する一つの提案たりうるということである。

＊他方、近代化批判による負の結果は、そうした近代批判の主張が、現代社会の根幹ともいえる「基本的人権」「個人の尊重」を揺るがすということである。基本的人権という西欧近代の概念について、それを前提とした社会・法体系にありながら、きわめて未成熟な日本社会において、「基本的人権など虚構にすぎない」と論じることの現実的意味が考慮されるべきである。

【参 考】「表象文化論」について

世界規模の社会の激動とともに、文化状況もまた加速度的に多様化し流動化しつつある現在、その変容の力学を正確に捉え、精密に分析し、さらにそこで得られた研究成果を文化創造の現場にフィードバックしてゆくことを責務とする人文科学的な〈知〉が求められています。それは、文学、芸術、哲学といったジャンルから始まって、テレビ、映画、情報ネットワークなどが形成する現代的なメディア空間とそこに生起するポップ・カルチャーに至るまで、多種多様な文化現象の解明をめざして、理論と実践の両面における果敢な実験を恐れない、柔軟にして厳密な知的営為でなければなりません。

表象文化論学会は、「表象」(representation)の分析という観点から、文化事象全般に対して批評理論に立脚した学術的アプローチを行いつつ、大学における研究と社会での文化創造のアクチュアリティとの間の架橋を企てていくために、2006年に設立されました。「表象」という概念は、哲学においては「再現＝代行」であり、演劇では「舞台化＝演出」、政治的には「代表制」を意味しています。表象文化論学会は、この「表象」という概念を、さまざまな文化的次元の関係性の核を表わすキー・コンセプトとし、文化的事象を孤立した静的対象として扱うのではなく、それが生産され流通し消費される関係性の空間、すなわち、諸力の交錯する政治的でダイナミックな「行為」の空間の生成と構造を考察しようとするものです。

(表象文化論学会サイトより <https://www.repre.org/association/about/>)